

鈴 江 昇・村 部・幸 夫

—15—

広経営……多角経営および増収安定の技術改善, 特に食糧の自給を目標とする。

米自給可能農家……多角経営および増収安定の技術改善特に労力の節約を目標とする。

(5) 試験担当農家の選定

米自給不可能農家群から 2戸

米自給可能農家群から 3戸

Ⅲ 担当農家の営農事情

(1) 経営規模

農家番号	經 營 耕 地 (アール)							試験地 (アール)
	水 田			畑	採草地	山林	計	
	一毛田	二毛田	小計					
1	—	30	30	65	100	100	295	21
2	—	—	—	99	30	150	279	22
3	4	55	59	63	80	40	242	27
4	16	30	46	70	100	2000	2216	15
5	3	27	30	83	60	240	413	16
計	—	—	—	—	—	—	—	101

(2) 生産手段 (最終年度)

農家番号	家畜家禽頭羽数					主要農機具							
	役牛	乳牛	山羊	豚	鶏	電動機	発動機	耕耘機	脱穀機	精米機	揚水機	単用犁	双用犁
1	1	0	1	0	30	0	1	0	1	1	0	1	0
2	3	0	0	0	40	0	1	0	1	1	0	1	0
3	1	2	0	6	20	1	2	1	1	1	0	1	0
4	1	0	1	0	20	0	1/2	1	1/2	1/2	1	1	0
5	1	0	0	0	30	0	1	0	1	1	0	1	0

〔注〕その他、県から貸与した下記農機具がある。

- 1) カルチベーター 3台
- 2) 麦土入機 2台
- 3) 双用犁 3台
- 4) 飼料切断機 1台
- 5) ハンドブラザー噴霧機 1台
- 6) 台秤 (80kg) 1台

(3) 試験圃場の作付体系

年次 圃場番号	33年	34年	35年	36年
1	小麦—大豆—小麦—甘藷—タバコ麦— ^{ハウレン草} 甘藷—蚕豆稈麦—甘藷—稈麦			
2	稈麦—甘藷—タバコ麦—そば—小麦— ^{大豆} 大豆—稈麦—甘藷—タバコ麦			
3	小麦—大豆—稈麦—大豆—タバコ麦—そば—稈麦—大豆—タバコ麦			
4	小麦—大豆—稈麦—大豆—タバコ麦—そば—稈麦—大豆—タバコ麦			
5	稈麦—大豆—タバコ麦—そば—稈麦—甘藷—稈麦—甘藷—タバコ麦			
6	稈麦—大豆—タバコ麦—そば—稈麦—デントコーン—小麦—甘藷—稈麦			
7	稈麦—甘藷—稈麦—小豆—蚕豆—甘藷—小麦— ^{デントコーン} そば—稈麦			
8	タバコ麦—馬鈴薯— ^{甘藷} 甘藷—稈麦—大豆—稈麦—甘藷—稈麦			
9	タバコ麦—大根—稈麦— ^{甘藷} 甘藷— ^{大豆} 大豆—タバコ麦— ^{白菜} 白菜—小麦—大豆—タバコ麦			
10	タバコ麦—そば—稈麦—陸稲— ^{エンバク} エンバク— ^{陸稲} 陸稲— ^{エンバク} エンバク— ^{甘藷} 甘藷—カブ			
11	タバコ麦— ^{大根} 大根—稈麦—ツル取甘藷— ^{テンサイ} テンサイ— ^{馬鈴薯} 馬鈴薯— ^{デントコーン} デントコーン— ^{エンバク} エンバク			
12	稈麦—大豆—小麦—大豆—稈麦—甘藷— ^{タバコ麦} タバコ麦— ^{デントコーン} デントコーン— ^{エンバク} エンバク			
13	蚕豆—大豆—小麦—大豆—稈麦—大豆—タバコ麦—デントコーン—蚕豆			
14	稈麦—大豆—蚕豆—大豆—稈麦—大豆—小麦—大豆—稈麦			
15	稈麦— ^{大豆} 大豆—タバコ麦—そば— ^{小麦} 小麦—大豆— ^{小麦} 小麦—大豆—稈麦			
16	タバコ麦—そば—稈麦—甘藷—タバコ麦—そば—小麦—甘藷— ^{稈麦} 稈麦			
17	タバコ麦—そば—稈麦—大豆—タバコ麦—白菜—タバコ麦—そば— ^{大根} 大根			
18	タバコ麦—そば—稈麦— ^{甘藷} 甘藷—稈麦—大豆—タバコ麦—そば— ^{稈麦} 稈麦			

Ⅲ 試験の内容

(1) 試験項目

- 1) 陸稲早期作の導入
- 2) 水稲作の耕種改善
- 3) 麦, 大豆, 甘藷の耕種改善
- 4) 用畜化への推進
- 5) 侵蝕の防止対策
- 6) 農機具利用による省力化

(2) 試験の経過

1) 陸稲早期作

昭和34年には、直播と移植栽培について試験を実施したが、夏期雑草におわれ成績の判定がやゝ困難となった。また移植時には著しい労力がかかるので今後は直播による耕種改善が要望された。

昭和35年には、直播中心に試験を行ったが、直播は、麦の成熟前に麦間に播種するので、麦の施肥量が大なる影響をおよぼす、本年は麦の追肥が多過ぎて麦刈りが遅れ、麦間の陸稲はやゝ軟弱となり、欠株を生じたりして期待が裏切られた。今後は、陸稲重点とし、麦作は肥料を控えて熟期を早めることが要決であるとの結論を得た。

昭和36年には、前年の経過から麦、陸稲の組合せを予定通りに実施したが、夏著しい早ばつのため予期した収量をあげ得なかった。

2) 水稲の耕種改善

適品種の選定、苗代播種量の減量、施肥の改善、病虫害の防除を重点的に実施したので各年を通じ好成績をあげた。

3) 麦, 大豆, 甘藷の耕種改善

麦；適品種の選定、施肥の改善、畜力用農機具による省力化を重点として実施した結果、収量の増大と特に品質の向上において目覚ましい成果をあげた。

大豆, 甘藷；大豆は玉錦、甘藷は護国を用い施肥と管理に留意したが、早ばつと雑草のため、大なる増収は得られなかった。

4) 用畜化への推進

山羊；2戸の農家へ導入

乳牛；昭和34年12月に1頭導入されたが、その後、購入、販売を繰り返し、37年3月には2頭となった。

豚；昭和34年11月3頭導入されたものを始めとし昭和37年3月には、8頭となった。

肥育牛；昭和34年3月1頭導入されたが、昭和37年には3頭となった。

5) 侵蝕防止

約25度の傾斜畑にウイピングラブグラスを定植した。

昭和34年には、早ばつのため適期を失し、同35年には定植したが、極度の早ばつと台風のため、活着不良となり枯死した。同36年に再度、定植したが、いも蔓過繁茂のため一部枯死、活着したものについては、順調な生育をとげている。

6) 農機具利用による省力化

カルチベーター、麦土入機、双用犁、飼料裁断機、ハンドブラザー噴霧機など貸与した農機具によって省力的に大いなる成果をあげたが、試験実施の最終年には、次の耕うん機が導入され驚異的威力を発揮した。

牽引駆動型耕うん機 1台

ティラー 1台

V 試験成績

(1) 畑作物10aの当り収量

1) 陸稲早期作

年 度	品 種	成熟期 月 日	稈 長 cm	穂 長 cm	1株 穂数	玄米重 kg	
34	移植	農 林 22 号	8 . 21	66.3	18.7	13.4	246.0
		“ 15 号	“ 23	53.1	17.9	12.7	215.0
		雀 不 知	“ 23	76.7	22.5	8.9	225.0
		農林糯25号	“ 21	65.5	19.9	12.0	225.0
		小 泉 糯	“ 22	80.7	22.4	10.9	226.5
	直播	農林糯20号	“ 25	71.4	21.5	12.0	261.0
		農 林 22 号	“ 30	74.4	19.1		271.5
		“ 15 号	9 . 1	74.2	20.3		180.0
		雀 不 知	8 . 31	83.0	24.7		234.0
		農林糯25号	“ 30	75.0	22.0		177.5
35	移植	小 泉 糯	“ 31	86.5	23.8		189.0
		農林糯20号	9 . 5	76.9	25.5		
直播		農 林 22 号	8 . 24	58.2	19.0		117.6
		雀 不 知	“ 24	69.7	21.1		112.7
		農林糯25号	“ 25	70.0	19.0		105.8
	“ 20 号	“ 31	67.1	19.6		161.5	
	“ 20 号	“ 29	60.0	19.6		115.2	
36	直播	農林22号(標)	8 . 24	76.4	19.1		246.0
		雀 不 知	“ 28	93.0	23.9		206.3
		農林22号(早)	“ 20	61.0	16.7		228.4
		“ (有芒)	“ 28	91.5	21.8		256.1
		都 京 2 号	“ 29	82.0	21.0		219.8
		“ 4 号	“ 30	80.6	23.0		176.8
		“ 5 号	“ 30	79.7	23.1		224.0
		“ 12 号	“ 27	80.8	22.9		232.2
		“ 13 号	“ 28	85.1	25.2		243.9
		農林糯20号(標)	9 . 1	86.2	22.8		175.7
37	直播	九州糯3号	8 . 28	80.1	21.8		267.6
		“ 6 号	“ 30	79.1	20.6		245.7

2) 水 稲 作

年度	農家番号	品 種	稈 長	穂 長	穂数	玄米重
35	4	農林29号	91.6cm	19.7cm	20.7本	443.4kg
	"	サチワタリ	94.7	20.1	14.1	389.4
36	4	山陰46号	109.3	20.5	18.6	406.3
	"	"	96.0	20.9	13.5	404.0
	"	サチワタリ	94.9	19.3	17.0	471.0

3) 麦 作

年 度	35 年 (kg)	36 年 (kg)
圃場番号		
1	—	377.0
2	547.5	662.0 443.0
3	—	409.0
5	399.0	316.0
6	519.0	360.0
7	—	343.0
8	525.0	490.0
9	—	573.0
11	466.5	—
12	502.5	—
13	436.5	270.0
14	480.0	491.0
15	397.5	480.0
16	—	403.0
18	457.5	—
試験地平均	473.1	401.2
対 照 区	429.8	314.0
増 収 率	110.1%	127.8%

〔註〕昭和34年産麦は、初年度実施の基本調査取組中のため試験開始に至らなかった。

4) 大 豆 作

年 度	34 年 (kg)	35 年 (kg)	36 年 (kg)
圃場番号			
2	175.0	144.5	—
3	117.0	—	155.0
4	132.0	—	155.0
8	—	158.7	—
9	158.0	—	160.0
12	162.0	—	—
13	128.0	132.3	—
14	157.5	112.4	85.5
15	—	105.8	99.7
17	135.0	—	—
18	139.0	105.8	—
試験地平均	144.8	126.6	131.0
対 照 区	107.0	106.0	102.4
増 収 率	135.3%	119.4%	127.9%

5) 甘 藷 作

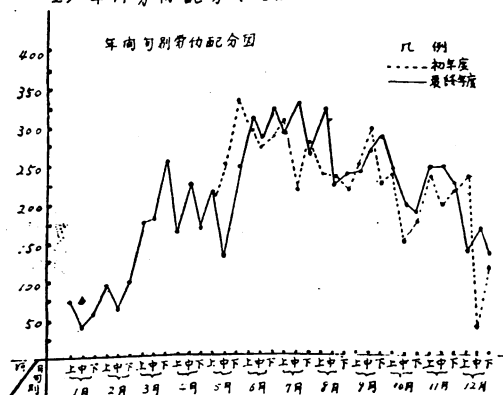
年 度	34 年 (kg)	35 年 (kg)	36 年 (kg)
圃場番号			
1	1425.0	1680.0	1535.1
2	—	—	2138.0
5	—	2062.5	1883.0
6	—	—	2066.4
7	—	1732.5	—
8	2857.5	—	1798.0
9	1946.3	—	—
12	—	1875.0	—
16	2107.5	—	2359.8
18	2272.5	—	—
試験地平均	2121.8	1837.5	1980.1
対 照 区	1800.0	1687.5	1613.0
増 収 率	117.9%	108.9%	122.8%

(2) 畑作物の10a 当り所要労力 (最終年度)

1) 部門別、作業別労力 (時) 10アール当り

作 業 名	陸 稲		水稲	麦	大豆	甘藷
	移植	直播				
苗 一 切			7.5			6.8
基 肥			3.0	3.6		15.3
耕うん						
耕起整地		4.3	10.2	11.0	2.0	12.1
代 掻			3.5			
そ の 他			1.1			
播種、挿苗	50.0	17.7		12.6	3.56	30.3
苗 取			17.7			
田 植			18.8			
揚 水			20.1			
中耕、除草	124.4	86.8	53.9	31.3	3.5	30.3
追 肥	33.1	14.3	1.0	2.2		
除 害	6.4	4.1	1.8			
刈取、(掘取)	26.9	17.5	18.3	25.0	5.3	32.1
結 束	5.3	7.3	9.2	1.9		
運 搬	4.4	7.3	2.0	8.7	2.5	
脱 穀	11.9	9.3	7.8	9.0	8.0	20.3
ワラ、ツル 処理	3.3	5.5	13.4	1.2		15.3
乾 燥	3.9	3.7	0.3	2.7	0.8	
糞 摺	2.8	2.3	2.7			
調整、俵装		4.1	2.0	5.9	2.5	
加 工						8.5
貯 蔵						6.5
そ の 他	27.2		25.3	2.4		12.1
計	299.6	184.2	219.6	117.5	88.1	189.6

2) 年 間 労 働 記 分 (2番農家)



(3) 家 畜 導 入

1) 山 羊

昭和34年12月	3番農家に導入
" 35 " 9 "	4 "
" 36 " 8 "	1 "

2) 乳 牛

●乳牛飼養の経過 (3番農家)	
成牛購入	昭和34年12月
"	" 35 " 10 "
成牛販売	" 35 " 10 "
成牛購入	" 35 " 10 "
仔牛販売 (♂)	" 35 " 10 "
" (♀)	"
" (♀)	" 36 " 3 "
成牛購入	" 36 " 3 "
成牛販売	" 36 " 6 "
・乳量 (2頭)	6,300kg (35石)

3) 養 豚

●養豚飼養の経過 (3番農家)	
仔豚購入 (3頭)	昭和34年11月
育成豚販売 (2 "	" 35 " 4 "
仔豚 (分娩6 "	" 36 " 1 "
仔豚販売 (3 "	" 36 " 3 "
仔豚 (分娩5 "	" 36 " 8 "
仔豚販売 (1 "	" 36 " 12 "
育成豚 (2 "	" 36 " 11 "
仔豚 (分娩6 "	" 37 " 1 "
" (" 8 "	" 37 " 2 "
現存 成豚2 育成豚4 仔豚14頭	

4) 和牛肥育 (2番農家)

購入 (1頭)	昭和34年3月
" (1 "	" 35 " 1 "
分娩 (1 "	" 35 " 1 "
現存 3頭飼養	

む す び

本部落は、共同体的性格をもつ円満平穏な部落であるが、社会経済の急激な進歩に呼応して飛躍的な経営発展を期するためには、山地利用による有畜化と、これを主軸とする高度の共同化であろうから、長期の目標をこゝにおいた、しかし一般に農家の経営規模が狭少であるところから個別技術の改善や、生産手段の改良が、まず先に提起された。畑作物の多収安定や、乳牛の年度内再三の売買は、現段階としてはいつわらざる営農の姿であろう、各作目については、成果の判定を見るまでに至らなかったものもあるが、作目相互間、労働手段、労力の関連において更に十分検討が必要と思われる。